

平成 2 2 年度魅力ある学校づくり推進事業実績報告書

小城市立小城中学校

1 テーマ（目指す学校づくり）及び検討した課題

- (1) テーマ 「生徒とともに学びあう楽校」
- (2) 検討した課題
 教師の授業力の向上（「学び合い学習」を取り入れた授業改善）
 長期休業中に地域人材を活用した補充学習の充実（サマースクールの実施）
 特別な支援を要する生徒に対する効果的な学習援助

2 テーマの成果指標及び結果

<p>成 果 指 標</p>	<p>学習状況調査について、各教科正答率を3ポイント上げる。 生徒とともに学びあう授業実践の定着。 家庭学習の時間を30分延ばす。 長期休業や放課後等で補充学習を実施する。</p>
<p>成果指標の結果</p>	<p>（現状） 県学習状況調査で県平均に対して（平成21年度調査との比較） 1年生：4教科平均4.2低い 平均で2ポイント上げる 2年生：5教科平均6.0低い 平均で2ポイント上げる 3年生：5教科平均0.0 平均で県平均より2ポイント上回る グループ学習に取り組んでいるが十分とは言えない。「学び合い」「支え合い」の協同的な学習形態をグレードアップし、本校独自の学習形態の確立を目指す。 家庭学習の時間を確保するため、保護者と協力して取り組む。</p> <p>（目標） 平成23年度調査で結果が判明次第速やかに報告します。 各学期1回の学び合い学習を取り入れた研究授業を行った。また、授業前の打合せ会や、授業後の学年単位の授業研究会も実施することができた。 担任による日々の自学ノートの取り組みやテスト前の学習計画表記入の取り組みの実践を行った。また、保護者会に教育センターの講師を招聘して、家庭学習に関する講話を実施し、保護者の家庭学習に対する意識向上を行った。</p> <p>（結果の考察） 学び合いに対する教師の意識も向上し、多くの授業場面に取り入れられるようになった。グループ学習を取り入れることで生徒の活動が活性化・深まりのある授業が展開できつつある。 保護者の意識向上が見られ、具体的な生徒への対応についてもアドバイスされたので、家庭学習に積極的に取り組む生徒が増えてきつつある。</p>

3 実施期間

平成22年4月 ~ 平成23年3月

4 実施実績

(1) 協議・検討のための会議等の開催実績

名称及び構成	人員数	開催予定回数
研究推進検討会 7月8日(木), 12月16日(木) 佐城教育事務所指導主事、本校教職員	5名	2回

(2) 実施した調査・研究活動

授業力向上の研修会 サマースクール・スキルタイムの実施(少人数での指導含む) 外部講師を招聘した「学び合い」学習の研修会 「学び合い」学習の先進校視察 学校評価における学習についての生徒・教師・保護者からの評価及び意見集約

(3) その他、当事業において実施した事項

帰国子女に対する日本語等の個別指導 補充学習用スキル学習教材開発 保護者向けの講演会の実施 補充学習時間を活用した本校独自の数学検定(1・2年生)の実施

5 県教育委員会(教育事務所含む)、佐賀大学、教育センター、各種関係機関等の活用実績

実施時期 (月日)	各種支援要請の内容・講師等の協力要請の実績
1学期 (6月16日)	教育事務所担当者・小城市教育委員会担当者を講師に「学び合い」による授業を行い、その後学年による授業研究会を実施した。また、全体会での意見交換も行った。
2学期 (11月17日)	教育センター担当者を講師に「学び合い」による授業を行い、その後学年による授業研究会を実施した。また、全体会での意見交換も行った。
3学期 (2月16日)	「学びの共同体」のスーパーバイザー藤田修一先生を講師に「学び合い」による授業を行い、その後学年による授業研究会を実施した。また、全体会で「学びの共同体」の考え方についての講演を聞いた。

6 主な検討結果及び課題解決に有効と考えられる具体策について

(1)教師の授業力の向上

授業研究会の活性化をねらい、本年度より学年による授業研究会を実施した。それに伴い、検討する内容についても、「教師の教え方」から「生徒の学び方」に中心をおいて議論した。中学校の教科による壁を乗り越えながら、生徒がいかに学んだかを議論することの重要性を感じることができた。

11/17(水)校内授業研究会を実施した。2教科(音楽・理科2クラス)で1~3年生3クラスを使って行った。学年による授業研究会では、1学期に引き続き2回目となるので、前回より内容のある充実した議論をすることができた。研究会後教育センターの講師より学び合い授業のポイント等の講義をしていただいた。また今後、本校における更なる「学び合い」学習の充実と、本校の課題解決を図るため、11/19(金)に先進校(愛知県)を視察した。

2/16(水)「学びの共同体」スーパーバイザー藤田修一先生を招聘して、学び合い学習の基本を学習した。また、学年別による研究授業や授業研究会も同時に行い、藤田先生にも各学年別研究会に参加していただき今後のアドバイスをいただいた。その後、藤田先生の講義をお聞きし、今までの教師主導の授業のあり方から新しい授業形態への授業改革の意識づけと今後の方向性を再確認した。

(2)地域人材等を活用した補充学習の充実

(サマースクール・放課後学習等の実施)

サマースクールでは、個人の学習意欲と学力の向上をねらい、グループ学習を取り入れながら、個に応じた学習指導を行った。また別室による指導により、より生徒の実態に応じた教師の対応ができるようになった。スキルタイム(放課後学習)についても同様の方法により行い、高い効果を得ることができた。

地域人材を活用したサマースクールやスキルタイムの実施により、地域と協同しての学習の場を提供することで、地域ぐるみでの生徒の学力向上への取り組みの一環とした形づくりとなり、生徒や保護者にとって学校への信頼・安心を深めていくものとなった。

(3)帰国子女に対する日本語等の個別指導の実施

日本語があまり理解できない帰国子女に対して、読み書きや算数の基礎学習を個別に行った。中学校の学習では、内容が難しくなかなか理解ができなかった状況であったが、個別学習を継続することにより、つまづきがあった内容も理解できるようになった。